

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記2> 材料費

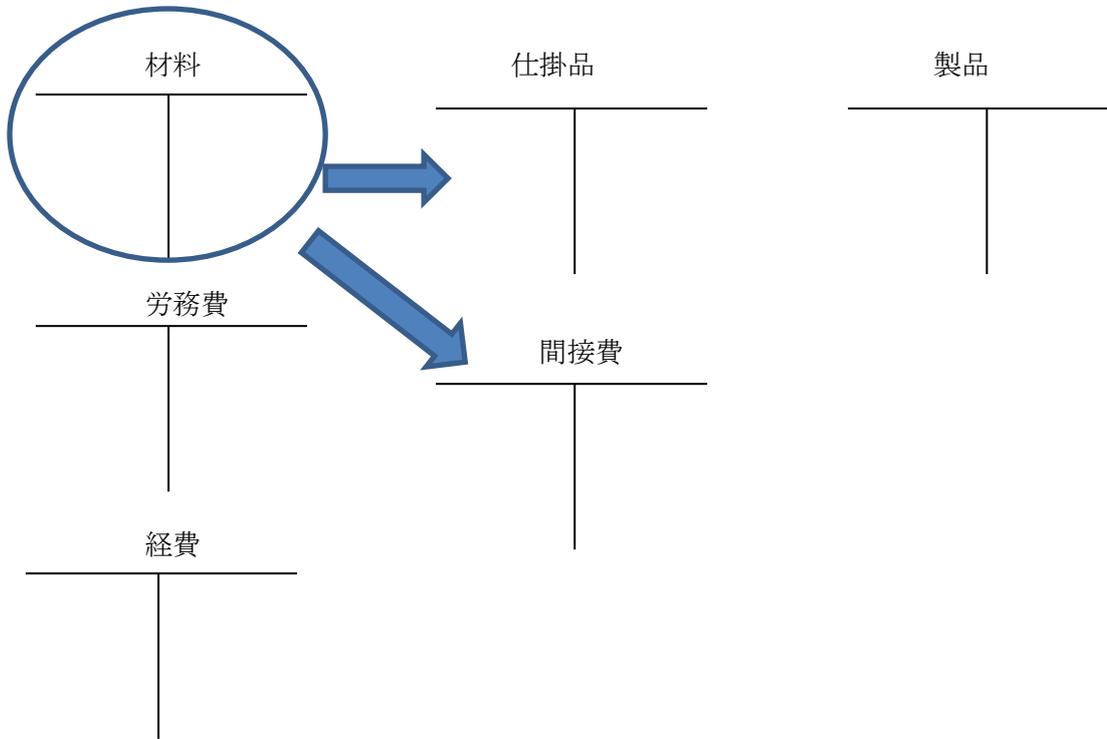
全9枚

※材料費1の動画で48分くらいで編集している部分があります



お持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）



今日は、材料費の内容をしっかりと見ていきましょう

原価計算のスタートは、まず「工場がかかった、ありとあらゆる経費を材料費・労務費・経費に分ける事」からはじまります。



材料とは端的にいうと「手に持てる物」です。

原価計算基準ではこのように書かれています。

材料費とは、物品の消費によって生ずる原価をいい、おおむね次のように細分する。

- 1 素材費（又は原料費）
- 2 買入部品費
- 3 燃料費
- 4 工場消耗品費
- 5 消耗工具器具備品費

1級になると科目別の特徴を把握する必要も出てきますが、2級では「手に持てる物」のイメージで結構です。

1. 直接材料費と間接材料費

前回の講座でお話ししたように、かかった費用は製品に直接紐づけができるかどうかで直接費と間接費に分ける必要があります。

分け方は

主要材料（素材）と部品（買入部品）は、何に使ったかが明らかなので直接費

それ以外は間接費です

直接以外は間接。
簡単ね！

2. 購入について

商業簿記で学んだ内容を思い出してください。
有価証券購入時の証券会社への手数料は？
商品を仕入れた時の付随費用は？
クレーン（固定資産）購入した時の工事費（手数料）は？



すべて、該当科目の取得原価に含めました。
材料も同じです。

材料を 10,000 円で掛け購入。引取り費用 100 円は現金で支払った。

材料	10,100	／	買掛金	10,000
			現金	100

ただ、工場では材料を管理するには様々なコストがかかります。



実務では、「運送会社からの請求書がなかなか届かない」「倉庫管理担当者の日報が遅れ気味」等で都度の把握が難しいのが現状です。これでは原価計算業務に支障をきたし、営業部の意思決定も遅れ気味になります。

そこで考え出されたのが、この付随費用を前年実績などをベースに予定計算するという事です。工業簿記の学習では「材料副費の予定配賦」といいます。言葉が難しいので「覚えようとする必要はありません」人間には「慣れる」という能力があります。

過去問の類題を作成しました。確認してみましょう。

第 136 回の第 4 問の(1)です

- (1) 当月、材料 50kg (単価 1,000 円/kg) を掛けで購入した。なお、購入にさいしては、材料副費として 4% を予定配賦している。

翻訳しましょう→今月材料を 50,000 えんで買いました。材料にかかる経費を 50,000 円×4%のせて計算しました。

これが予定でなければ

材料 52,000 / 買掛金 50,000
現金 2,000

です

でも、2,000 円は予定計算なんですね。この段階では現金は出ていません。

じゃあ、どういう風に仕訳しよう。学者さんは素晴らしいです。新しい科目をつくりました。

材料 52,000 / 買掛金 50,000
材料副費 2,000

でも学者さんの限界です。簿記の学習をはじめたばかりの人に、費用が右に出てきたら混乱します。なので私は、**材料仮勘定**と読んでいます。そんなイメージで考えて下さい。

このあと、実際の引取り費用や倉庫管理費用が判明します。3,000 円だったとします。

材料副費 3,000 / 現金 3,000 (実務では、この手前に別の仕訳が存在します)

差が 1,000 円出ますね。

これを

材料副費配賦差異 1,000 / 材料副費 1,000

として差額の金額を残すようにします。

後から差額の分析をしたいのですね。

差異に関しては、このあとの章で、もう少し詳しく説明します。

学者の考える事は、難しいがじゃでも、試験は気楽にいくぜよ！



3. 消費について

P 2 の勘定連絡図の  の流れを「消費」といいます。

直接材料の消費は仕掛品へ振り替えます。また間接材料の消費は製造間接費に振りかえます。

こんな感じです

購入した材料 (@100 円/kg) を製造指図書 #101 に 10kg、何かわからないものに 1kg 使った。
製造指図書ってというのは、指図するのだから「特定のもの=紐づけ可能なもの」です。

従って、仕掛品 1,000 / 材料 1,100
製造間接費 100

となります

でも、仕入れるタイミングが違くと単価もかわります。
この計算方法をみてみましょう

4. 先入先出法と平均法 (ここで、少し動画編集入っています)

これは日商簿記 3 級で学習済みですね。一応復習のために、動画で解説します。

月初在庫 10 個 1,000 円、当月仕入 90 個 9,900 円、当月末の在庫 20 個
この時の、在庫金額と消費金額は？

先入先出法の場合		総平均法の場合	
10		10	
1,000		1,000	
90		90	
9,900		9,900	
	20		20

ここで、棚卸計算法と継続記録法について少し述べておきましょう。

上の BOX では、逆算で消費量を求めました。 $10 + 90 - 20 = 80$ ですね

でも実際に 80 個使ったのか、75 個使って 5 個なくなった (盗難にあった) かわかりません。

もしこれが重要な材料だったら困ります。そこで 3 級で学んだような商品在高帳を作って帳簿在庫を管理し、月末に実地棚卸をする事で、なくなった分 (棚卸減耗) を管理し、なぜなくなったのかを分析する必要があります

す。これを継続記録法と呼びます。しっかり管理はできますが手間はかかります。

4. 予定配賦という考え方

日商簿記2級の第4問での出題頻度の高い予定配賦（90%くらい？）

ここは、しっかりと理解して下さい。

原価計算を迅速にしたい！単価を安定させたい！この2点が営業部からの要請です。

このイメージで、予定配賦の考え方を動画で説明します

手続きは以下の通りです。



STEP1（予算決定）

第1期の最後に当期の実績を参考に来季の予算組をします

例えば、Aという材料の予算は10,000Kgで1,000,000円とします

STEP2（予定配賦率の計算）

単価が出ます。@100円ですね。変な日本語ですが、これを予定配賦率といいます。

STEP3（予定配賦額）

ここが難しいようですが・・・

今月、製造#100に500kg、何につかったかわからないのが100kgでした。

仕掛品 50,000 / 材料 60,000・・・①

製造間接費 10,000

STEP4（実際配賦）

翌月10日総平均法で実際の額が判明しました。単価は120円でした。

もしも予算を決めていなかったら、この段階で下記の仕訳を行います

仕掛品 60,000 / 材料 72,000

製造間接費 12,000

でも、帳簿には①の金額で処理されています。材料は 72,000 円減っているのに 60,000 円しか減っていないという状態はまずいですね。また、原価の計算も 72,000 円かかったものを 60,000 円で計算して利益の計算をしたら投資家や銀行の信用を失います。そこで・・・

<材料消費価格差異 12,000/材料 12,000> という仕訳をします

差異勘定の名前は難しいので、とりあえず「差異」で覚えて下さい。簿記の試験では勘定科目は与えられますから覚える必要はありません。

また材料の価格が予定よりも高かったので会社にとっては不利ですね。

従ってこの差異の事を不利差異といいます。

差異勘定が借方に来るので、借方差異ともいいます。

ごろ合わせで覚えましょう。

「借りたら不利」「カリフーリ」どちらでもOKです

予定よりも安かったら、有利差異・貸方差異といいます。このあたりはお持ちのテキストで再確認して下さい。

STEP5 (差異の期末会計処理)

言葉は難しいですが、予定のまま決算報告書を出したら「嘘の財務諸表」を報告する事になります。そこで、差額を売上原価に加算（減算）します

先の例で直接材料費だけで考えてみましょう

材料	仕掛品	製品	売上高 100,000
50,000	50,000 50,000	50,000 50,000	

この場合P/Lの利益は 50,000 です

でも、本当は 60,000 の原価で利益は 40,000 ですね

このままではウソになるので、投資家に報告する決算のタイミングで原価を 10,000 円加算します

各テキストにのっている

<売上原価 10,000/原価差異 10,000> というのはこういう意味なのです

<試験のポイント>

材料費は直接材料費と間接材料費、労務費も直接労務費と間接労務費、経費も直接経費と間接経費があります。

では棚卸減耗費は間接材料費でしょうか？実は間接経費に分類されます。

「なくなったものは手に持てない」なので材料費ではない。人件費でもないから間接経費になると覚えて下さい。

132回第4問の1. (1)(2)(3)にチャレンジしてみてください

CMCでは過去問演習の為に、「過去問ゼミ」を販売しています。

本試験対策にぜひご利用ください



●採用の決め手？

大学卒業後は日本信販（現在の三菱 UFJ ニコス）の子会社である近畿日本信販に入社した。入社後に総務部長から聞いた話です。

「横山君の履歴書は不採用側にあったんだよ。でも社長が、面白いからこいつも採っとけ」との事だったそうです。

面接の内容を再現します。

面接官「履歴書に（趣味）競馬・マーじゃんと書いてますが……何か学ばれましたか」

私「はい、競馬では14～5頭の馬から、最後に3頭に絞る必要があります。締切の時間と自分の財布を天秤にかけて、最後の1頭をどちらかに決めるという決断力を学びました」

面接官「では麻雀は」

私「はい、これは自分だけでなく、同じように勝ちを競っている相手3人との駆け引きを学びました。いくら自分が良い手でも、相手に上がられたらOUTです。自分の事だけでなく競争相手を常に意識する事を学びました」

今考えても、よくこんな言葉が出たもんだ、と感心します。でも担当の部長は「こいつは何考えてるんだ」と思っていたそうです。そして私の履歴書は不採用側に……

でも、ここでも強運。このおじさんは誰だろうと思っていた人が実は社長で、その人の「面白いから採ってこう」で復活したそうです。

真偽のほどは定かではありませんが、その年の忘年会で面接を担当した部長から直接聞いた話です。

まじめな話です。競馬もマーじゃんも一生懸命やりました。私の性格は、先の展望よりも「目の前の事」にのめりこむタイプ。

目の前の事を一生懸命できない人に、先の展望を読む力はつかないと思います。将来志向も大事ですが、「目の前の事」大事だと思いませんか。



講師横山の著書
「弥生検定攻略テキスト」
コラムより抜粋